



母の献眼

特別寄稿 L.山本辰男 様

明け方、義母が入院中の病院から「急変したので、直ぐに来るように」との電話で目が覚めた。慌てて、妻と急行した。すでに人工呼吸を始めている。「ほかに家族の方は？」と尋ねられるが、義兄は朝のラッシュでなかなか到着しない。

「どうして…」「なんで…」「昨日来た時には、あんなに元気だったのに…」、動揺して妻は泣き叫ぶ。当日担当の看護師さんも、「つい今までお話をしていたのに…」と様子を語る。

医師は、死亡確認後「死因は心不全だと思うが、正すために解剖されますか？」と尋ねられた。小生は「解剖すれば、本人が生き返るのか！」と答えたが、その会話の途中で献眼提供に気づいた。「先生、義母の眼は大丈夫ですか？」と尋ねたら、「他の病気がないので、良好だ」との返事もらった。

義兄らに了解を得るため話をしたが、急なことゆえ即答はもらえなかったが、暫くして「故人が喜ぶなら、すきにしたらいい」と返ってきた。

故人を偲ぶ間もなく早速アイバンクに連絡、入江事務局さんと病院との対応で 献眼の実現に至った。小生も、これまで、アイバンク登録している友人知人の死に遭ってきたが、いざ献眼となるとなかなか実現が困難で、縁遠いものと思っていた。

摘出後、入江事務局さんがエンゼルメイクを始めた。「皆さんどうぞ」とメイクをうながされ、皆で義母の顔を拭いていると、義兄は「母の顔に触れたことなど無かった…」とやや興奮気味な様子だった。義母は、摘出の痕も見えず、丁寧なメイクで10歳も20歳も若返って、あの世へ旅立たれたと思う。その後、関東方面の2名の方から、「10年待っておりました。おかげさまで光を頂きました。大切に使います。」と礼状が届いた。小生も自分の事のように、本当に嬉しかった。

さらに、法事の際には、親戚から「なんて、素晴らしい活動をしているんだ。私もぜひ登録したい」とアイバンク登録を申し出られた人もいた。これからも、多くの方が、光を取り戻されることを願ってやまない。

最後に、6月3日、厚生労働大臣感謝状の伝達式には、妻の付き添いとして小生も同席させていただいた。富山県アイバンク高田理事長をはじめ役員の方々の心のこもった伝達式には、感無量であった。(平成20年6月3日富山東ライオンズクラブ所属)

< 5月の事業実績の概要 >

● 献眼登録者数	8名
● 累計	19,093名
● 献眼者数	2名
● 累計	9名
● (献眼移植者数)	15名
● 奉仕銀行助成金	0円
● 累計	1,250,000円
● 寄付金収入	100,000円
● 累計	788,375円
● 賛助会費収入	3,000円
● 累計	750,000円
(累計額訂正あり)	
● 募金収入	42,601円
● 累計	138,073円
● (助成金ほか累計)	2,890,150円

◆理事会にて役員3役の選任を行いました。

去る5月24日、富山第一ホテルにおいて理事会を開催いたしました。役員3役の選任につき、討議した結果、満場一致で以下の役員が選任され、即日就任されました。

理事長 高田眞(再任)・名誉理事 井村東司三(再任)
副理事長 本村哲明(再任)・副理事長大黒幸雄(再任)
常務理事 岡本武勇(再任)・常務理事 野村謹吉(再任)

◆角膜内皮移植医療機器をLCIF申請へ

去る5月24日に開催した理事会において、富山大学医学部眼科林教授、北川准教授より現在の角膜移植事情のお話と角膜内皮移植医療機器導入についてのお話があり、理事会にて、ライオンズクラブへ機器導入のためのLCIF助成金申請のお願いを行った。

◆富山セントラルライオンズクラブ認証45周年記念式典にて寄付金を頂きました。

去る6月5日、ANAクラウンプラザホテルにて行われた富山セントラルライオンズクラブ認証45周年記念式典において寄付金を頂きました。成伯会長より高田理事長へ目録が手渡され、高田理事長より感謝状の贈呈を行いました。

・助成金・寄付金・賛助会費・募金(5/1～5/31まで)敬称略

寄付金

・富山セントラルライオンズクラブ 100,000円

賛助会費 個人

・澤田朋一

募金

・ヘアサロン リュー 800円 ・新鮮市場パローレ庄川店 525円 ・喫茶ビッグジョイ 571円

・やさしい手作りの味と家具の店 ごぼうクラブ 2,414円 ・レストラン&ケーキの店ユース丸 2,362円

・日本命理学会・四柱推命 9,530円 ・水新建設(株) 2,198円 ・新富旅行(株) 1,430円 ・

・野崎塾・青山ゼミ写真教室 2,820円 ・創作料理店くすくすダイニング 2,030円 ・(以上富山高志LC) ・その他 14,921円